

2010年度オレオマテリアル部会(関東支部)セミナー

—オイルゲル化剤が切り拓く オレオマテリアルの新展開—

オレオマテリアル部会では、各種のセミナーやシンポジウムを開催して、油化学関連分野における機能性素材・材料の創製や応用に関わる研究開発について、意見交換や情報提供を行っております。今回は、化粧品、食品、医薬品等の基材から廃油処理に至るまでさまざまな場面で機能が発揮される「オイルゲル化剤」に焦点を当て、その素材研究、製品開発に取り組んでおられる産学の方々を多方面からお招きし、下記のような豊富な話題を予定しております。油性ゲルの利用、素材開発に広くご興味をお持ちの方々など、多数のご来場をお待ちしております。

主催：日本油化学会 オレオマテリアル部会

日時：平成22年11月12日(金) 13:30～17:25

協賛(予定)：日本化学会、高分子学会、日本生物工学会、日本農芸化学会、
日本化粧品技術者会、日本化粧品学会、有機合成化学協会他

会場：東京理科大学・森戸記念館(1階)

(東京都新宿区神楽坂4-2-2, JR飯田橋駅下車, 徒歩10分)

【演題と講師】

1. 『低分子化合物による物理ゲルの形成とゲル化の原理』 (13:35～14:35)
信州大学 大学院総合工学系研究科 英謙二氏

低分子化合物の中には溶媒に加熱溶解後、放冷すると結晶化ではなくゲル化するものがある。物理ゲルを形成するそのような化合物はゲル化剤と呼ばれる。ゲル化剤はなぜ結晶の代わりに物理ゲルを形成するのかを超分子化学の観点から考察しゲル化の原理を述べる。また、ゲル化剤を分子設計するための指針や開発事例を述べ、特性・調製法・応用について解説する。

2. 『シリコーン油のゲル化増粘を目的としたシリコーン系増粘・ゲル化剤』 (14:35～15:25)
東レ・ダウコーニング株式会社 ライフサイエンス開発部 近藤秀俊氏

シリコーンは低分子間力等に由来するユニークな特性を有するが、それ故、粘度調整の困難な油剤の一つにもなっている。増粘・ゲル化作用をその機構毎に分類し、各々の機構に対応するシリコーン油の増粘・ゲル化について、主としてシリコーン系の材料およびその効果について紹介する。

■休憩 (15:25～15:40) ■

3. 『ペプチド骨格を有するジェミニ型両親媒性化合物のオイルゲル形成機能』 (15:40～16:30)

旭化成ケミカルズ (株) 添加剤事業部 山本 政嗣 氏

ジェミニ型両親媒性化合物は、非常に低濃度で界面活性が発現される点が大きな特長である。弊社が開発したペプチド骨格を有するジェミニ型化合物は、D相乳化と同様の手法で、オイルをゲル化する機能を有し、ジェミニ型であるがゆえに低濃度で多量のオイルを保持できる。さらには、シリコーン系、エステル系、植物油系、炭化水素系、などの種々のオイルをゲル化できる点も大きな特長であり、本講演では、その詳細について述べる。

4. 『化粧品用途におけるアミノ酸系油ゲル化剤について』 (16:30～17:20)

味の素ヘルシーサプライ株式会社 化粧品事業部 岡田 拓矢 氏

現在、いくつかのオイルゲル化技術が知られており、その機能と応用が注目されている。アミノ酸系油ゲル化剤「EB-21」「GP-1」は低分子型オイルゲル化剤であり、その性能が高く評価されて化粧品を中心に利用検討がすすんでいる。実際の利用例を交えながら機能と特徴を紹介するとともに、低分子型オイルゲル化剤の今後の展開と課題について述べる。

■セミナー終了後、同記念館2階 第一会議室にて、ミキサーを開催いたします■

【申し込み&問い合わせ】

申し込み： 当日受付も可能ですが、事前に必要事項（氏名、所属、連絡先、参加費額、ミキサー参加の有無）を記入のうえ、下記までEメールでご連絡願います。

参加費： 学 生 2,000 円,
普通会員 5,000 円,
法人会員・協賛学会個人会員 6,000 円,
会 員 外 10,000 円（テキスト代込み、当日会場にてお支払い願います）。
ミキサー： 4,000 円

連絡先： 産業技術総合研究所・環境化学技術研究部門 福岡 徳馬（部会幹事）

E-mail: t-fukuoka@aist.go.jp Tel: 029-861-4427 (直通)

申込み締切：(ミキサー参加の場合)：11月4日(木)